

京田辺市・井手町・宇治田原町
未来へ向け変わりゆくまち



長年、議会において要望していた国道307号線市辺一奈島間のバイパス工事が着々と進んでいます。このバイパスが完成すると、慢性的に渋滞していた国道307号線の渋滞緩和に大きな効果があります。1日も早く完成し、大型トラックも安心して通行できるように、府に対して早期完成を要望してまいります。

[第14回] 有権者の声 Voice of voters 宇治田原町 垣内 秋弘さん

新名神高速道路の開通が、当初の計画(令和5年度)より若干遅れることが想定されますが、工事は日増しに進捗していることが実感できます。新名神が開通しますと、インターからの車の出入りが増加するため、周辺道路は一層混雑の原因になります。現状でも307号は、朝夕混み合っています。

現在、宇治田原山手線は京都府の方で着々と工事を進めていますが、今後、庁舎から307号までの1.7kmを早期完成に向け、継続着工を願うところあります。一方、宇治方面へは宇治木屋線と立場線がありますが、現状車の量は、立場線の方が圧倒的に多く、新名神が開通すれば宇治方面へは立場林道を利用する車が一層増加し混雑が予想されますが、道路の格上げを図ると共に、道路の拡幅をはじめとした整備が必要となります。近隣市町との連携はもとより、京都府の主導で早急に整備されることを願います。

今後も府民の声に耳を傾け、議員活動に励んでほしいと思います。



北川たかし事務所に、お気軽にお立ち寄りください
皆さまのご意見・ご要望など聞かせてください。

北川たかし事務所 Takashi Kitagawa office

〒610-0313 京都府京田辺市三山木中央5丁目1-10 マンション竹長1F
TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601

✉ office@kitagawatakashi.net ⚡ http://www.kitagawatakashi.net



いよいよ「井手やまふき支援学校」が、令和4年4月に開校を迎えます。これからここで多くの児童生徒が学ぶことができると嬉しいです。プールをはじめ、様々な設備が整えられていますので、よりよい教育活動が実施されることだと思います。



宇治田原山手線も工事が進んできました。私が議員になってから京都府に対して要望してきた道路です。この道路が完成することで、宇治田原町の交通渋滞も解消され、生活環境が改善されると思います。これからも着実に計画が進むように、また、全線開通が早期に完成するよう府に対して要望してまいります。



宇治木屋線犬打峠のトンネル工事も着実に進んでいます。このトンネルが完成することにより、和束町の皆さんの利便性が増し、経済効果が期待されます。観光ルートとしての活用による経済効果、災害時のリダンダンシー(代替路)効果があると強く訴えてきた道路ですので、こちらも着実に計画が進むように府に対して要望してまいります。

北川たかし

府政活動レポート 第14号



プロフィール

京田辺市三山木生まれ／奈良育英高校 卒／大阪電気通信大学 工学部 卒／神戸大学大学院 経営学研究科 修了／元(株)富士通神戸エンジニアリング 勤務／元 流通科学大学 非常勤講師 ラグビー部監督／元 関西大学 非常勤講師／(有)竹長 代表取締役／全日本農業会 京田辺市支部 委員長／NPO法人 幸せに生きる力を育む研究所理事／京都府議会議員
【資格】教育カウンセラー／産業カウンセラー／米国CTIコーチング(CPCC)／防災士／赤十字救急法救急員 など
【家族】妻、子ども2人 【趣味】スキューバダイビング／ラグビー

発行 北川剛司 〒610-0313 京都府京田辺市三山木中央5丁目1-10 マンション竹長1F TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601

ごあいさつ

皆さまから多大なるご支援をいただき、府議会議員として7年が過ぎようとしています。今期は、「文化・教育常任委員会」委員長、そして「予算特別委員会」副委員長を拝命し、活動してまいりました。21年度も残すところあとわずかとなりますが、現在開会中の2月議会では、2022年度の府予算が適切な予算編成となるよう、しっかり取り組んでまいります。また、コロナ禍で、大きく影響を受けている文化、スポーツならびに教育に関しても、力を尽くしてまいります。

現在、新型コロナウイルス変異株であるオミクロン株の強い感染力により、子どもの感染者が増えています。感染対策をしても、いつうつたか分からぬという、不安な状況です。重症化リスクは少ないようですが、やはり



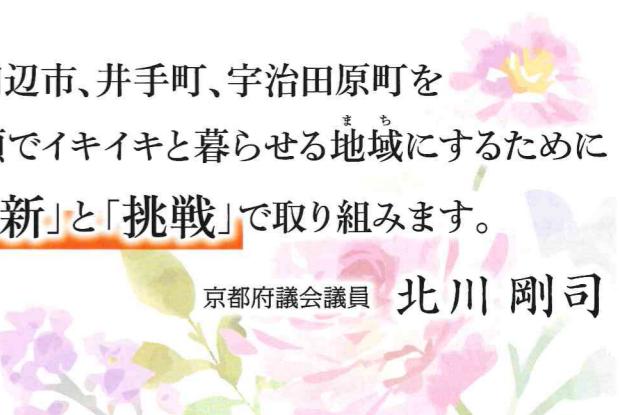
後遺症も気になるところですので、再度、手洗い、手指消毒の徹底をしていきましょう。京都府も様々な対策を講じ、府のホームページ等で情報発信をしています。オミクロン株への対応は、これまでとは違う対応が必要になってくると思います。これまでの対応の反省、課題を分析し、より適切な対応を行えるよう、府に提案してまいりたいと思います。

先日、残念ですが、新名神高速道路の全面開通が遅れるとの発表がありました。しかしながら、木津川右岸を中心に、道路網の整備が進んでいます。渋滞緩和と災害時の代替道路の整備は、経済や私たちの生活には欠かせないものなので、遅滞なく進めていけるよう、しっかりとチェックしてまいります。

この他にも、地域における取り組むべき課題がたくさんあります。それぞれの課題に対して、より具体的に取り組みが進むように、皆さんの意見も伺いながら、京都府に対して意見を伝え、提案できるように全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

京田辺市、井手町、宇治田原町を笑顔でイキイキと暮らせる地域にするために「革新」と「挑戦」で取り組みます。

京都府議会議員 北川剛司



議会報告

2021年12月 一般質問 要旨まとめ

1 山城地域における 道路環境の課題について

質問 北川 令和5年度に新名神高速道路が開通することで、山城地域の環境は大きく変化し、発展が期待されるが、経済的効果が地域全域に及ぶには多くの課題が山積している。特に、木津川右岸地域は地形が険しく、交通基盤整備が遅れ、自然災害に対して脆弱であり、道路も未整備区間が多く、日常生活にも深刻な影響を及ぼす中、山城地域における道路環境の課題に関して、次に述べたい。

(1) 令和5年度の新名神高速道路開通や、令和7年度の大・関西万博開催を見据え、山城地域の経済、観光、お茶、農業をどのように発展させていくのか。

(2) 新名神高速道路の開通と同時に宇治田原山手線の宇治田原町役場までの開通や、宇治木屋線のトンネル整備が整うことで、新名神高速道路の開通効果が更に発揮されるため、同時期の完成を目指すべきと考えるが、現在の整備状況と完成見込みはどうか。

(3) 京滋バイパス宇治東ICと新名神高速道路や国道24号城陽井手木津川バイパスを繋ぐ道路整備を行うことで、新たな観光ルートが生まれるなど、山城地域における新名神高速道路の整備効果が向上すると考えるがどうか。

回答 知事 (1) 新名神高速道路の全線開通や大阪・関西万博の開催がもたらす波及効果をしっかりと捉え、京都の未来づくりにつなげていくことは、府政を推進していく上で極めて重要な課題である。

山城地域については、これまで山城地域振興計画のもと、学研地域などエリア特性に応じた地域づくりを推進するとともに、AI・IoTを活かした次世代産業の創出や、観光・農業など地域の未来を支える産業の振興などに取り組んできた。

地域産業の振興を図っていく取組として、「お茶の京都」の更なる推進による、世界市場における宇治茶のブランド価値の向上、「九条ネギ」の6次



私はこう思う



私が考える山城地域道路構想は、宇治市から宇治田原町、そして和束町を経由して木津川市へ抜け、精華町、京田辺市を繋ぐ大きな環状道路を構築することです。これにより利便性が増し、山城地域全体が発展すると考えています。

2 今後のけいはんな学研都市の 在り方について

質問 北川 関西文化学術研究都市建設促進法に基づき国家プロジェクトとして整備が進められるけいはんな学研都市も、建設から約34年が経過し、この間、バブル崩壊期を挟みながらも、立地施設や人口は着実に増加し、研究開発において多くの成果を生み出しているが、今後のけいはんな学研都市の在り方に関して、次の諸点について、所見を伺いたい。

(1) けいはんな学研都市では、国のスマートシティモデル事業の先行プロジェクトである「スマートけいはんなプロジェクト」が令和元年に採択され、今年で折り返しの3年目となるが、これまでの取組状況と成果はどうか。

(2) 平成28年3月の「けいはんな学研都市の30年後に向けて」発行から5年が経過したことを踏まえ、今後に向けたPDCAサイクルにおける、Do(実行)、Check(評価)、Action(改善)をどのように捉え、けいはんな学研都市を発展させていくのか。

回答 企画理事兼商工労働観光部長 (1) ラストワンマイル対策等による高齢者の社会参画の促進や、脱炭素社会の実現など、安心安全に暮らせる持続可能な都市づくりを目指している。具体的には、「GPS搭載シェアサイクル」や「電柱吊りオープン型宅配ボックス」の設置によりCO₂削減と生活利便性の向上を図るとともに、「オンデマンドバス」の実証実験により住民の多様な移動手段の確保に取り組んだ。

今後は、実証実験で明らかになった一定の成果や課題に対し、採算性向上などの課題解決を図りながら、実装に向けた取組を加速化していく。

(2) 学研都市のまちづくりは、本年6月にとりまとめられた第4ステージの中間評価では、海外のイノベーション拠点との連携や、実証フィールドの構築、グローバルなスタートアップ支援などが、持続的なイノベーションの推進の観点から評価された一方で、産業化に向けた「産学官住」の連携支援機能の強化や、交通利便性の向上等が課題とされた。

後半5年間は、実証実験から事業化までを担う連携ハブ機能の拡充や、国内外の拠点都市との連携によるスタートアップ支援等により、研究成果の産業化を図るとともに、ラストワンマイルモビリティの実装化等により、交通ネットワークを強化することで、「世界の知と産業を牽引する都市」を目指していく。

私はこう思う

工場が主となる地域の場合、社会環境の変化により発展衰退を繰り返しやすいと言われています。けいはんな学研都市は、文化学術研究に特化した都市開発であるため、長期間、発展し続ける都市になる可能性が大きく、大切な構想だと思っています。



3 ICTを用いた教育のあり方と ネットいじめ対策について

質問 北川 (1) 今後のICTを活用した教育のあり方について、どのように考えているのか。また、来年4月には、ICTに長けた生徒が高校に入学し、ICT知識に関して教師の方が劣る可能性もあるが、それまでに国の調査項目でもある「教師の授業でICTを活用して指導する能力」の向上をどのように行うのか。(2) 小中学校に配備された学習用端末やアプリを使った、いじめや中傷等のトラブルが多発することを危惧するが、府教育委員会としてICTを利用した教育を進める上で、この問題をどのように認識し、小・中・高校における予防対策をどのように考えているのか。

回答 教育長 (1) 対面式授業の良さを活かしつつ、ICTを効果的に活用することにより、個別最適で協働的な学びの実現など、質の高い教育をめざす必要があり、改革のリーダーとなる教員の人材育成に向け、小中学校と併せて、府立高校教員も対象に取組を進めている。

教員の指導力の向上を図るために、これまでから総合教育センターを中心とした研修や先進事例の紹介などを行ってきた。また、今年度から1人1台端末を活用した授業が行われている小中学校では、各校での日々の実践や校内研修を通じて、教員個々のICT活用指導力が向上しており、その指導の下で、授業等での積極的な利活用が図られている。

さらに、府立高校においては、小中学校での端末の活用実態を理解するため、高校教員による小中学校の授業視察のほか、オンラインアプリを活用して、学校の垣根を越えた日常的な情報交流や、実践事例・トラブル対応などの情報共有ができる教員のコミュニティづくりも実施しており、こうした取組を通じて、引き続き教員のICT活用指導力の向上を図っている。

(2) ネットいじめは、ネット以外のいじめと同様に、いじめは決して許されないものであると徹底することが重要であり、これまでから、人権学習資料集を活用した学習や情報モラルの研修を各学校で実施するほか、保護者向けの啓発リーフレットを配布している。一方で、ネットいじめは潜在化しやすい、拡散しやすいなどの特性があり、様々な事案が府内外で発生していることを踏まえ、警察や企業等が参加する会議において、ネットトラブル等に関する課題を共有した。今後の対応を協議し、対策の一層の充実に努めていく。

多くの小中学校では全学年でICTを導入し、ICTを活用した教育が行われています。私は、今のICTの活用段階は、ICT環境を整える初期段階だと思います。次の段階としては、ICTを、効率よく物事を論理的に考える一つの道具と捉えて授業ができるよう、教育コンテンツを整える必要があると思っています。令和4年度に予算計上されている『デジタル学習センター(仮称)』を早急に設置し、ICTを活用した学習支援をしていただきたいと思います。